

8 月 定 例 教 育 委 員 会
会 議 録

1. 招集年月日 令和6年8月21日（水）
2. 招集の場所 海田町役場
3. 開会（開議）令和6年8月21日（水） 14時45分宣告
4. 出席者

教育長 森山 真文 委員 林 孝 委員 米丸 禎宏
委員 大野 美恵子 委員 竹岡 美佳

5. 説明のため出席した者の職氏名

教育次長 新藤 正敏 学校教育課長 小村 孝広
教育指導監 立田 春美 主幹 高木 和希
生涯学習課長 森原 知美

6. 職務のため出席した者の職氏名

係長 平田 裕子

7. 議事日程

第1 会議録署名者の指名について 林委員

第2 議案第15号 令和7年度使用中学校教科用図書の採択
について

第3 議案第16号 令和7年度使用特別支援学級用教科用図
書の採択について

第4 議案第17号 令和6年9月議会補正予算案について

第5 議案第18号 海田町文化財審議会委員の委嘱について

第6 報告協議第30号 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

第7 報告協議第31号 生徒指導上の諸課題について

第8 報告協議第32号 各行事の開催及び結果等について

8. 議事の内容

14:45開始

○教育長（森山） それでは8月教育委員会会議定例会を始めます。本日の会議録の署名は林委員にお願いいたします。本日の議題は、お手元に配付のとおりですが、議案第15号から議案第17号までは、非公開としたいと思います。非公開とする理由ですが、議案第15号、令和7年度使用中学校教科用図書の採択につきましては、安芸郡教科用図書採択地区採択事務の規則におきまして、情報公開の時期を広島県教育委員会が文部科学省に対し、広島県内全ての採択地区における採択結果を報告した後、とすることが定められております。次に、議案第16号、令和7年度使用特別支援学級用教科用図書の採択につきましては、児童生徒の個人情報が含まれているということでございます。最後に、議案第17号、令和6年9月議会補正予算案につきましては、検討中の予算案であるため、非公開となります。以上の議案第15号から第17号までの非公開につきまして、御異議ございませんか。

(全委員から異議なしの声)

○教育長（森山）異議なしと認めまして、議案第 15 号から第 17 号までは、非公開と決定いたします。なお、議案第 15 号及び議案第 16 号につきましては、資料を終了後回収させていただきますので、御了解ください。それでは、議事に入ります。

(議案第 15 号)

(議案第 16 号)

(議案第 17 号)

○教育長（森山）議案第 18 号、海田町文化財審議会委員の委嘱について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○生涯学習課長（森原）それでは議案第 18 号、海田町文化財審議会委員の委嘱について、御説明いたします。資料 3 ページをお願いします。海田町文化財審議会委員について、新たに委嘱するものでございます。任期は令和 7 年 11 月 30 日までです。説明は以上です。

○教育長（森山）はい。前も同じことを聞いたと思うのですが、まず、定員は何人でこの方が何人目とかありましたか。

○生涯学習課長（森原）この方で 5 人目、定員は 7 名以内です。

○教育長（森山）7 人以内で 5 人目に依頼する方ですね。活動内容は。前も聞いたかもしれませんが。

○生涯学習課長（森原）今、文化財の保存活用計画を作っていますので、その御意見をいただくのが主な活動になります。

○教育長（森山）分かりました。ただいまの説明につきまして、御質問等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山）なければ、議案第18号につきましては、原案のとおり決するで、よろしいでしょうか。

（全委員からよしとの声あり）

○教育長（森山）異議なしと認め、原案のとおりといたします。それでは、次にまいります。報告協議第30号、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○学校教育課主幹（高木）報告協議第30号、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、を御報告いたします。本調査の結果については、国や県の平均正答率が先月公表されましたので、御報告いたします。まずは、資料5ページを御覧ください。海田町の平均正答率は、小学校国語77パーセント、算数71パーセント、中学校国語65パーセント、数学59パーセントとなっており、国、県の平均を上回っております。資料6ページを御覧ください。23市町別順位を表しております。網掛けの部分が、海田町となっており、各教科の横線にちょっと太くなっていると思うんですが、太い罫線がありますが、こちらは県の平均を示しております。資料7ページを御覧ください。今回の結果を踏まえ、5年間の結果を学校別にまとめているものです。少し字が小さ

いですが、各校5年間分を載せております。それでは、各教科によって、問題を見ていただきながら、今回の全国学力テストについて、スライドで説明をしますので、御覧ください。報道されているとおり、国語については、事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に、課題が見られました。自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや、表現の効果を考えることに課題が見られました。算数、数学については、図形や単位量当たりの大きさ、速さなどについて、深い理解を伴う知識の習得や、その活用に課題が見られた。複数の集団のデータの分布の傾向を比較してとらえ、判断の理由を、数学的な表現を用いて、説明することに課題が見られました。小学校国語科につきましては、まず、1の2の(2)の問題です。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように、表現を工夫する問題ですが、正答率が56.9パーセントとなっております。お手元に、問題を配らせていただいております。

5ページの問題は、第5学年、6学年でA話すこと聞くことの部分で、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように、表現することが6.9パーセントとなっております。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように、表現を工夫する力を、日頃の授業の中で、付けていく必要があります。続きまして、2の2の問題です。9ページになります。目的や意図に応じて、事実と感想、意見等を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する指導の

充実になっております。国の正答率は、56.7 パーセントでした。本町では、69.1 パーセントでした。国よりも 13 ポイント高くなっております。これは、5、6 年生の思考力、判断力、表現力、B 書くことになります。やはり事実と感想、意見等を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する力が必要であり、日頃の授業の中で、書くことを中心に、継続的にやってきた成果ではないか、と思っております。続きまして、中学校の国語です。この部分で、課題が見られた問題は、5 ページの問題になります。これは情報の扱い方に関する事項で、意見と根拠など、情報と情報との関係について、理解しているかどうかを見る問題です。国は 44.4 パーセントの正答率でした。海田町では、43.1 パーセントということで、国の正答率を下回っております。話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて、自分の考えをまとめることに課題があります。話し合いの目的や話題を意識し、話し合いが、どのような段階にあるのかを捉えながら、話したり、聞いたりできるように指導していく必要があります。続きまして、小学校の算数です。11 ページになります。内容としましては、第 3 学年と第 5 学年の学習に関する、図形の問題です。この立方体の形をした紙の箱の体積が何立方センチメートルかを求める式を書く問題です。ただし、紙の厚さは考えないものとします。国の正答率が 36.9 パーセントで、本町としては、47.3 パーセントで高い数値が表れております。図形の体積や面積を求める際、情報を自ら

選び出すなど、図形の意味や性質の理解を深め、図形を構成する要素を見出し、活用できるようにする力が各学年段階で定着している成果だと思います。続きまして、14 ページの問題になります。5 年生の問題は、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を、言葉や数を用いて、記述できる力が求められています。両方 1,200 メートルで、問題は、家から学校まで、かなたさんは 20 分間、ほのかさんは 24 分間かかりました。それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いのかを求める問題です。答えはかなたさんですが、海田町の正答率 39.3 パーセント、国は 31.0 パーセントとなっております。正答の条件としては、歩いた道のりが等しいとか、かなたさんがかかった時間が、ほのかさんがかかった時間より短いこと、このような条件で、正答な文章を書けている子が、19.9 パーセントでした。また、かなたさんが歩く速さを表す数や式、言葉、ほのかさんが歩く速さを表す数や式、言葉で書いてる児童が 16.9 パーセントということで、場面に応じて、速さの比べ方を考察できるようにすることが大切です。続きまして、中学校の数学です。課題のあった問題が、15 ページになります。海田町の正答率は 22.2 パーセント、国は 25.9 パーセントとなっております。国の正答率よりも低くなっています。これも、正答の条件が様々あります。データの分布の傾向を比較したり、読み取ったり、判断の理由を、数学的な表現を用いて、説明できるようにすることが、課題とな

っています。今後に向けてですが、改善計画の作成を、各学校に依頼しています。まずは、問題の趣旨を先生方が理解する。結果の見方を理解し、児童生徒の解き方や考え方を解釈していく。この解釈を仮説として、児童生徒を対象に検証していく。日々の指導改善、充実に役立つアイデアを出し合うということで、この夏休みに各校で、このような視点で検証しながら、改善計画を作成しています。来月、町教委主催の研修を行います。系統性を踏まえた、組織的な学習指導の展開ということで、やはり調査の対象学年ではなく、全ての学年に当該指導事項に係る学習の指導の充実を図り、螺旋的反復的に指導するなど、学校全体で組織的に学習指導を行う体制を構築していきます。2点目が、個に応じた指導を、適切に行うための学習課程などの工夫ということで、児童生徒一人一人の学習状況に応じた指導を行うためには、教師による一斉指導だけではなく、問題解決、学習過程や学習形態を工夫するなどして、個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実を図るということで、やはり、国の方も、この個別と協働というキーワードをよく言われており、本町としても、この視点を意識しながら、授業改善というものをしていきたいと思っています。そのためには、I C T機器の活用が効果的であると思っています。I C Tを使うことによって、生み出される時間が、10 分と言われています。つまりいてる子に対する問題を取り入れて、個別にする時間とか、違った視点での学びができると考えております。I C T機器の活用について、今

回、国が言っているのは、課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表、表現する場面で、ICTを活用している。その両方に、取り組んだ児童生徒は、各教科の正答率が高い、という結果も表れております。本町でも、踏み込んで、取り組んでいきたいと思います。約9割の児童生徒が、以下のようなICT機器活用の効力感を感じているということで、分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。それから、画像や動画、音声などを活用することで、学習内容がよく分かるということで、先ほども、二次元コードの話がありましたが、そういう部分は、メリットだと思います。友達と考えを共有したり、比べたりしやすくなるということで、これまで模造紙とか付箋とかでやっていたものが、ここで、交流ができる。電子黒板に映して、児童生徒の意見を取り上げてできるということで、このように表れておりますので、本町でも、ここは意識していきたいと思っています。以上でございます。

○教育長（森山） 今日、校長会があったんですけど、話をさせていただいて、こういう学習を積み上げていくという前の大前提として、学びの基盤の部分がどうかというところで、読売新聞の掲載があったんですけど、問題を見てもらおうと、読む体力がない。最後まで読み切って、問題に取り組んでいないというところが、まず大前提としてあるので、そこを身に付けないと、例えば中学校の国語とか、かなりですね。あと、要約する力がない。読むことと書かせることをしっかりさせる、

ということがやっぱり小学校、中学校で、継続的にやっていかなきゃいけないというのが、書いてあったんですけど、課題はさっき示しているんですけど、本町がですね、活用というところで、読み込んで理解するとか、書くということに関しては、全体的に数字的には悪くはないんです。だから、今日も、校長先生方に話したのは、小学校、中学校でしっかり声を出して読ませてくださいとか、新聞を題材にして、一定程度、文章を読ませてくださいとかですね、西中はヤングスポットで書かせて、100字とか200字にまとめるであるとか、ああいふ活動が日々の中で、こつこつやって、ここに表れてきていますよという話を、今日させていただいておりますので、その上で、さらにというところです。何か御意見がありますでしょうか。

○委員（林）話に出てきましたけど、下学年の積み上げが、おろそかになると、6年生や3年生の学習の成果に出ていますよね。やっぱり、1年生からずっと積み上げていかないといけないのだと、改めて、今日、説明を聞いて思いました。

○委員（米丸）別紙を見ると、小学校では、やっぱり学習環境とかいろいろ活動されているから、国語は、平均というか、そんなに下がっていない。中学校になった時に、やっぱりSNSだとか、読むことがなくなって、多分、見ることでやっているから、だんだん国語が下がって、読み切れていないというのが、出てるのかなと思います。

○教育長（森山）さっきの読売新聞の記事に同じようなことが書いてあ

って、スマホを使う時間が増えると、学力が下がる。ICTを使うと、上がるんですけど、スマホ使うと下がる。その原因として、例えば、ラインで言葉を送るはずのものが、絵で送って、雰囲気で解釈するということがあるので、読んだり、書いたりという、時間を取られずにやる過程があるということが書かれていますね。それだと思います。

○委員（大野）分析がよくされているなというふうに思いました。学力調査の結果で、問題とか結果を見るということは、とても大切なことだと思います。先生方それぞれが、児童にどういう力を付けるかといった時に、様々な視点で語ってしまうと、その教科のいろいろな視点が入ってきた授業になってしまうんですが、海田町として、どんな授業をしますかといった時に、これを1つの指針とするのもいいなと思うんですよね。そうしないと、何かがないと、やっぱり海田町としての力、子どもたちの成長の力というものを、積み重ねていくことの良さ、何を積み重ねるかというところを、少しでも明確にすると、子どもたちが、学習って楽しいなって、きっと思うところがあると思うんです。図形なんかでも解決すると、前の学年のこれを使うと、できたよと言った時の子どもたちが、すごく嬉しそうに、面白いと思うことが、やっぱり学習する上で、すごくエネルギーになると思うんですよね。そのためにも、たかがという人もいるけれども、こういうものを、大切に分析しながら積み重ねていくという取り組みを、大切にできたらいいな、引き続きしていただきたいなと思います。

○教育長（森山）結果がゴールではなく、これを通じて後ろへ繋げていくことですかね。

○委員（大野）そうです。

○委員（竹岡）6ページのこの表を見ると、海田町の結果が出ていて、これはやっぱり、地域の者としても、親としても、すごく海田町に頼もしいなと感じる結果だなと思いました。点数ではあるんですけど、きつとここに、子どもたちが学びに向かう姿勢みたいなものが、しっかり身に付いてきているんだらうなということを、ちょっと感じさせられて、これからも、こういう力が身に付いていくといいな、これから先の子たちにも、付いていくといいなと思いました。あと、さっき読む体力という話が教育長さんからあったと思うんですけど、読む体力って、大人の私でもやっぱり、ちょっと落ちてきているのを感じるんです。読む体力はやっぱり、トレーニングが必要なんだと思うんですよね。さっきICTとSNSの違いみたいな話があったと思うんですけど、やっぱりデジタルで、この文字を読むというのは、やっぱりその注意が逸れやすいとすごく言われてるんですよ。スクロールが必要だったり、いろんな情報に、すぐアクセスできるということが、よくもあるんだけど、それが注意散漫な子とか注意が散漫な大人にとっては、逸れやすいというところがあるので、だからICTが駄目、SNSが駄目、デジタルが駄目というわけではなくて、それぞれで読み方の違いがある。デジタルはデジタルの良さがあって、紙は紙の良さ

があるので、何でトレーニングをしながら、どういうふうにその能力の使い分けをしていくかというのを、子どもたちに身に付けていてもらうことが、やっぱり 1 番大事なのかなあと。そのためには読む体力、基礎体力だと思うんですけども、ここをしっかりと、小学校、中学校で身に付けていて、デジタルの世界でも、紙の世界でも、どんな読み物だったとしても、自分の能力の使い分けをしながら、しっかり自学自習できている、学びを続けていけるような体力を付けていく大人になっていてほしいなというふうに思いました。

○教育長（森山）ありがとうございました。校長先生方にも、しっかりと読ませてくださいとか、書かせてくださいと言うんですけども、何をとか、どういうふうにと、具体的に海田町として、これを中心に取り組んでいきますというもののの中で、それを授業に生かしていったりということですね。うちの考え方は、これを基にですね、作っておりますので、それをまた、各学校に落として、さらにやっていただくというプロセスで持っていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。それでは、よろしいでしょうか。

（全委員からよしとの声あり）

○教育長（森山）では、次にまいります。報告協議第 31 号、生徒指導上の諸課題について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育指導監（立田）報告協議第 31 号、生徒指導上の諸課題について、

を教育委員会に御報告するものでございます。資料 9 ページを御覧ください。令和 6 年 7 月末の暫定値について、御説明させていただきます。まず、小学校ですが、暴力事案が 10 件ございました。前月比が 1 件増、前年度比で 5 件の減となっております。いじめ認知件数が 8 件、前月比が 1 件増、前年度比 4 件の増でございます。不登校児童数は 8 名です。前月比 6 名の増、前年度比 2 名の減でございました。それから、小学校で不登校の児童数が 6 名増えております。中学校の説明に入らせていただきますが、暴力事案が 9 件、前月比で増減なしでございます。前年度比で 3 件増となっております。いじめの認知件数は 5 件です。前月比で 1 件増えております。前年度比でも 1 件増えております。不登校生徒数は 23 名です。前月比で 3 名増えております。前年度比で 4 名の増でございます。小学校も中学校もなんですけれども、登校に向けて、保護者と連携をしたり、それからスクールカウンセラー等の助言で、医療機関に繋がったり、受診することができたりというようなことで、スクールカウンセラーもですが、こども課とも交えながら、学校と一緒にいろいろな方法を模索して手立てを講じているところでございます。そういった取り組みの中で、小中合わせて、少しずつ好転してきている児童生徒もおります。間もなく、2 学期が始まるんですけれども、30 日がきたかどうかということではなくて、昨年度よりも、1 日でも多く登校できるように、それぞれの児童生徒の状況ですとか、背景ですとか、それから思いなどをきちんと情報連携し

ながら、個に寄り添った支援を継続していこうと思っております。以上でございます。

○教育長（森山） 中学校のいじめ 1 件の概要は分かりますか。

○教育指導監（立田） はい。

○教育長（森山） 夏休み前までには、改善というか指導が終わっている。

○教育指導監（立田） 指導は終わっています。

○教育長（森山） 何か御質問はございますでしょうか。不登校の新規はないですか。

○教育指導監（立田） 新規は今のところいません。

○教育長（森山） 多いですね。ここだけが。中学生がですね。

○委員（大野） 中学生と関わることがあまりないので、不登校の原因となるところは、いろいろあるんだろうなというふうには思うんですね。朝起きること、生活、食事、体力、気力、それから学習と、いろいろあるんだろうなと思うんですけど。学校も一生懸命されてるし、どこも一生懸命されているので、どこを責めることではないんですけど、勉強が分かんないよと言える場面が、中学校で思春期にもなるし、難しいねと。何でもいからやってみよう、というような場というのがあればいいなと思いながら、原因は何だろうというのはちょっと難しい。探っても分からない。子どもたちの口からは出ないけど、いろいろ接していると、勉強が分からないというのが、1つの理由なんじゃないかなと思うので、何ができるかなと考えたら、やっぱり小学校

1年生からの積み重ねを、間違えてもいいからやってみるとか、そういう何か解決方法の探り方というか出し方、答えを教えるんじゃないくて、考える思考をどこかで教えることが要るのかなと思ったことがあったんです。原因は何かちょっとつかめないところが、何とも言えないんですけれども、小学生や中学生と関わっていきいたいという人が、地域にはいらっしゃるんで、ちょっとその思いを大切にしながら、背中をそっと押してあげることができたらいいな。もう、学校だけじゃないと思うんですよね。いろんなところが助け合って、声かけできたらいいな、そんな町になったらいいなと思います。

○教育長（森山）先ほどの話とも繋がる場所があるんですけど、そこが最後ですね。

○委員（大野）そうですね。

○教育長（森山）何か御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○委員（竹岡）さっき、何となく原因は分からないという話があったと思うんですけど、やっぱり言語化できないというのはあるんだと思うんです。何かこうあるんだけれども、言語化できない。だけど、それって何なんだろうね、というのを支える大人がいて、やっとその解決の糸口が見えてくるような気がするんです。やっぱり、何かがあるんだと思うんです。きっと何かがあるんだらうなというのを気にしながら、見守る大人が、地域なり学校なりにいると、この子のこれ

からの成長の時に、たぶん何回か出てくるんだと思うんですね。何となく、やってしまったこと。それを問題として、なくすことじゃなくて、それがこの子のきっと課題なんだろうから、課題が起きたときに、チャンスとして、何なんだろうねというのを、一緒に見てあげながら、その子が解決していけるような、考える思考を身に付けてほしいなという話もあったんですけど、そういう力を最終的には身に付ける、そういうチャンスとして捉えていけるといいのかなと思いました。

○委員（米丸）この数字だけじゃない。ただ、夏休みが終わって、学校が始まる時に、夏休みの間のいじめだとか、隠れていた部分が出なければいいなということと、不登校もそうですけれども、9月1日とかね、今は早く始まりますけれども、そういうのが、前後したら出てくるから今週から心配だなと感じました。

○教育長（森山）中学校は、3年生が今日授業出てますね。来週の月曜日に中学校の始業式で、小学校が29日、30日。

○教育指導監（立田）30日だったんですけれども、この前の大雨の臨時休業もあって、29日からになっております。

○教育長（森山）1日前倒しですか。

○委員（大野）始業式は6時間ですか。

○教育長（森山）給食ありますね。

○教育指導監（立田）そうですね。

○委員（大野）給食があって、帰るとかではない。

○教育長（森山）ではない。

○委員（大野）昔はですね、ちょっとウォーミングアップがあったんですね。

○教育長（森山）あったんですけどね。

○委員（大野）あれが良かったような気がします。ごめんなさい。日数とか、大変なのはよく分かって、やりますというふうに言ってた方なので、あれなんですけど。やっぱり子どもの立場からしたら、ウォーミングアップは大切なんじゃないでしょうか。

○教育長（森山）でしょうね。

○委員（大野）急に 180 度の生活が変わるというのは難しい。

○教育長（森山）大人でもしんどいです。

○委員（林）来週から子どもが学校に戻ってくる。先生がわくわくしてるのか、どうなんだろうと何かその方が心配になってます。南小は 26 日に登校日があって、そこから始まるのかと聞いたら、29 日からだと言っていましたから、ウォーミングアップじゃないけど、上手くやっているんだなと思いながらと聞きました。不登校が 7 月末で、これだけの人数出てきている。大事なのは、30 日という期限が切れたからじゃなくて、そのあと何の効果を取るか、ということなのかなと思ったりします。中学 3 年生は、やっぱり次のステップを考えるから、手を差し伸べてもらいたいと思っていても、行けないという子もいるんじゃないかなと思ったり、いじめの問題もさっき出しましたが、大人が信

じられていたら、そういう話をずっと先生にも伝えることができるのかな。そういう意味では、信じることができる大人がいるか、目星を付けてみたんだけど、それが先生であったり、親であったり、地域の人だったりというような、そういうのを増やしていけるような、サードプレイスという言葉が出ましたけど、ああいうふうな所を増やしていかなきゃいけないのかなと思いました。地域の人たちもまた、登校支援で出て行く時に、元気に声をかけて、返せるみたいな、そういうことを、子どもたちに求めたいなと思いました。

○教育長（森山）今週中に、気になる子たちについては、情報共有をして、家庭訪問なり電話をして、実態を把握することと、スタートに向けて準備が必要な子については、していくようにということで、学校はもう動いてくれていますので、29日にスタートして、2日行ったら、とりあえず土日とかですね、ぼちぼちやっていこうと思います。よろしいでしょうか。

（全委員からよしとの声あり）

○教育長（森山）それでは次にまいります。報告協議第32号、各行事の開催及び結果等について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤）報告協議第32号、各行事の開催及び結果等について、御報告させていただきます。こちらにつきましては、各課長から御説明いたします。

○学校教育課長（小村）学校教育課でございます。資料の12ページを御覧ください。まず、8月の行事ですが、明日から教育長が岡山で中国五県町村教育長会に参加する予定になっております。9月の行事を御覧ください。2日から10日まで、町議会9月定例会が予定されております。13日金曜日には、大野委員に大阪で研究協議会に御参加していただくような予定になっております。次回、教育委員会会議の定例会は、19日木曜日海田中学校で9時半からという予定になっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

○生涯学習課長（森原）生涯学習課から御報告させていただきます。資料13ページを御覧ください。現在、ひまわりプラザで巡回写真展をしておりますが9月3日から、安芸区さんにちょっと声をかけていただいて、矢野駅で展示することにしております。9月22日けんみん文化祭、民謡民舞の祭典が織田幹雄スクエアであります。生涯学習課からは以上です。

○教育長（森山）9月22日日曜日、三連休の真ん中なんですけど、民謡民舞の会が、初めて海田町であります。それまで坂町でした。

○委員（大野）毎年、海田町ですか。

○教育長（森山）とりあえず、今年初めてですね。来年度あるかどうかは分かりません。織田幹雄スクエアのホールがすごく環境がいいのでということで、今回、利活用していただいている状況です。何か御質

間がありますでしょうか。

(全委員からなしとの声あり)

○教育長（森山） それでは、以上で本日の議題はすべて終了いたしましたので、教育委員会会議を終了します。本日はどうもありがとうございました。

15：25 終了